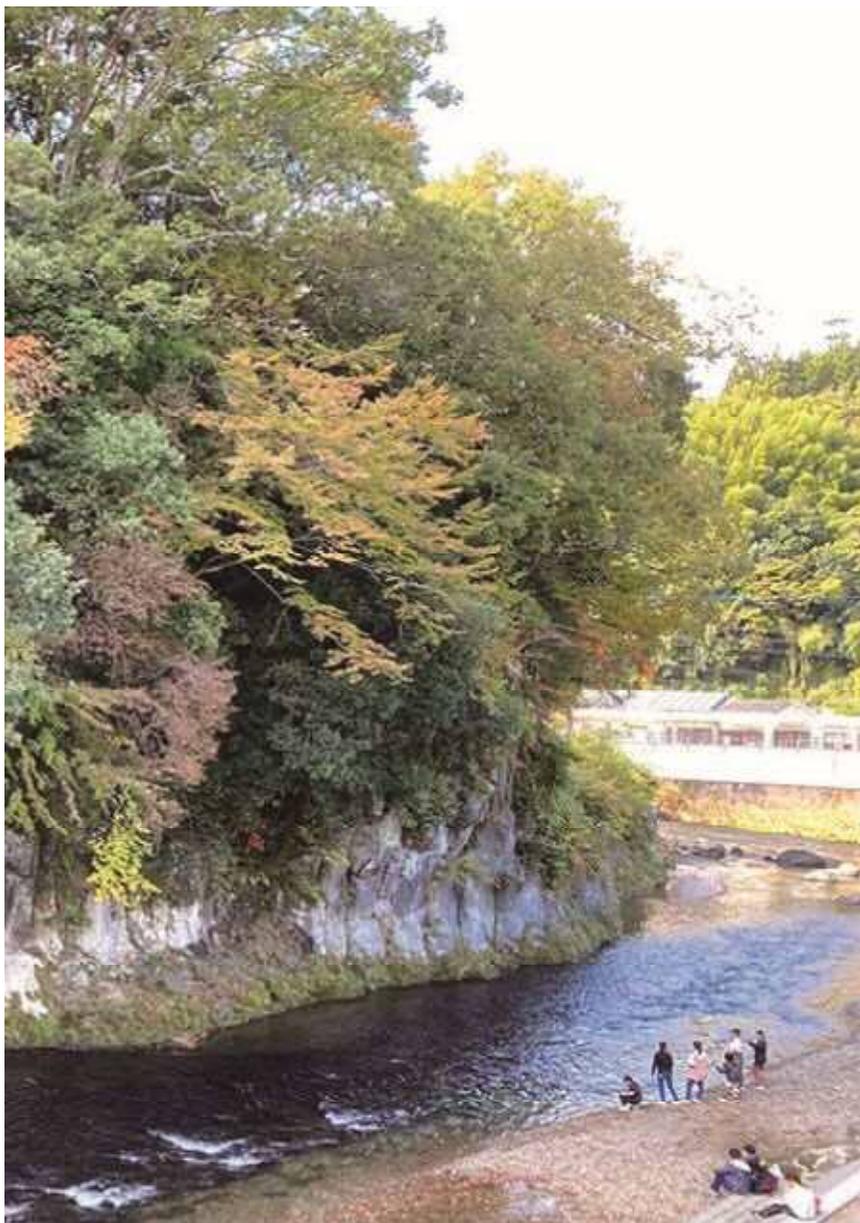


五ヶ瀬価値可視化プロジェクト
五ヶ瀬プライド 計画書



五ヶ瀬を光らせる。

自然のゆりかごから生まれるタカラモノ。

令和3年8月03日 五ヶ瀬町修正

令和3年3月31日 西日本新聞社


editforest

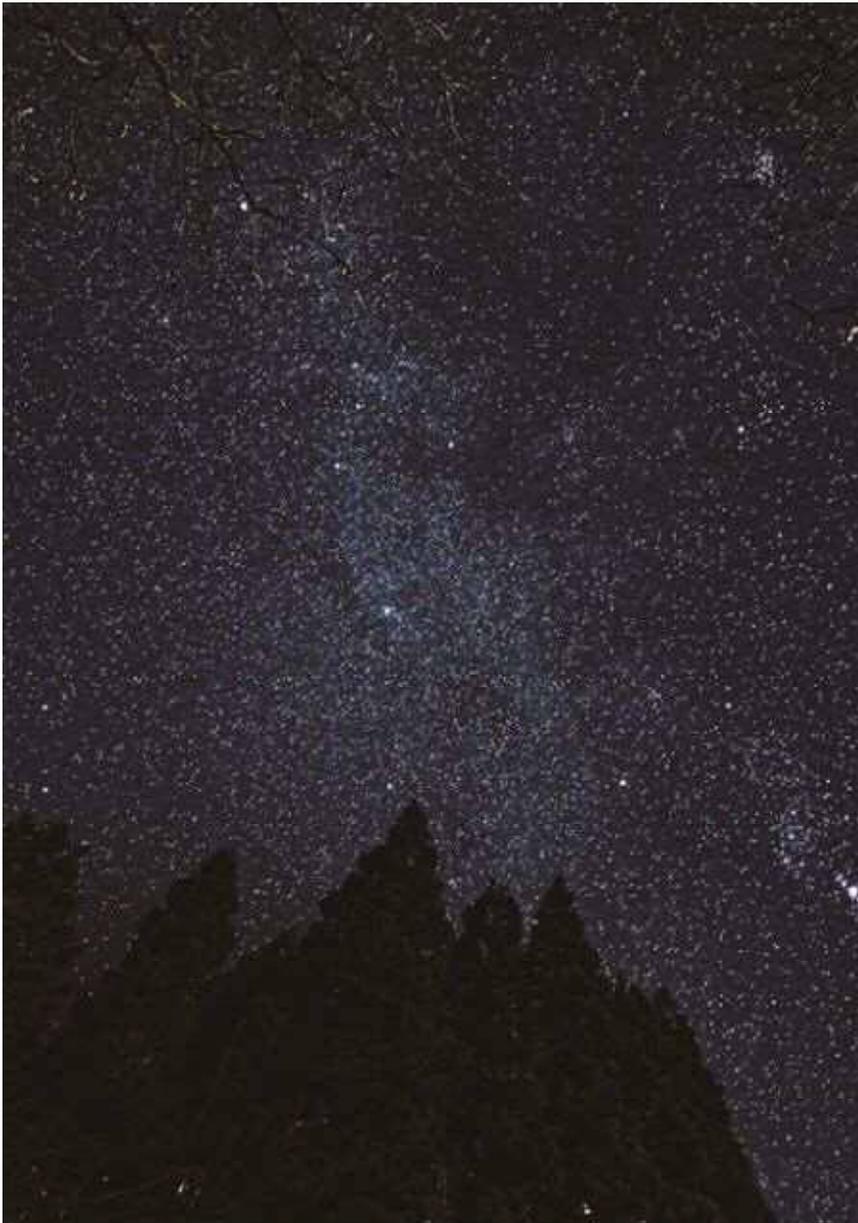


はじめに

本計画は、2020年秋に西日本新聞社との間で締結した地域活性化包括連携協定に基づき、向こう5年に渡り、具体的な政策案に落とし込んだ。あくまで案だが、ここを起点として内容をブラッシュアップし、スタートを切れたら幸い。なお、連携協定事項は下記の8つ。

- (1) シティプロモーション・観光振興に関すること
- (2) 産業振興及び雇用創出に関すること
- (3) 健康増進・スポーツ振興に関すること
- (4) 教育・子育て支援に関すること
- (5) 移住・定住に関すること
- (6) 農業振興・食育に関すること
- (7) 環境・エネルギーに関すること
- (8) 防災に関すること

連携協定事項の具体的な取り組みに関しては、国のまち・ひと・しごと創生基本方針、五ヶ瀬町まち・ひと・しごと創生総合戦略も踏まえて計画・推進していく。



光とは誇り。

世に活性化やブランディングの声を聞かない日はない。同時に、少子高齢化だとか、過疎化だとか、限界集落だとか、負の嘆息がこれでもかと響いてくる。日本中が賑やかだった頃に戻れるとは思わない。でもそれは決して哀しむべきことではない。本当の幸せのカタチは、これからここでつくられる。大事なことは、量ではなくて質。都会のようになることではなく、五ヶ瀬ならではの価値を見つけ、磨くこと。ちゃんと換金もするけれど、ゴールはこの町の誇りを育てること。そのために私たちは、私たちの未来を探す努力を惜しまずに歩いて行こう。

五ヶ瀬を光らせるシンボルマーク



関係図

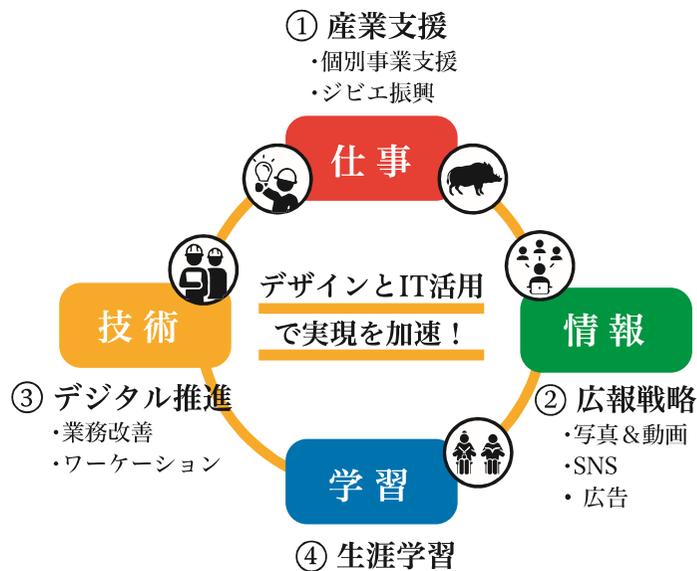
五ヶ瀬プライドの位置づけ - 五ヶ瀬町第6次総合計画 -

複数プランの整理をしたい。あらゆる課題を網羅した総合戦略がまずあって、その具体化のために「言い換え」をしたプランが五ヶ瀬プライド「五ヶ瀬を光らせる。全21ページ」。展開されるさまざまな戦術に優先順位をつけ、対象と内容を明記し、スタートを切りやすくする。補助資料として、プランを目的と手段に簡素化した五ヶ瀬目標と手段がある。

さらに、五ヶ瀬プライドの下に、「ジビエ振興」「個別事業者支援」「公式SNS」のような個別の詳細プランが分化していく。今後詳細プランは、与件に合わせて内容を整えながら、数を増やしていく。

以上が、行政職員に向けた整理だとすれば、「町民向け～わがまちごかせ(仮)」は、全町民に向けた簡易版ということになる。全体図と個別説明に分けられる。

五ヶ瀬 Pride 「わがまちごかせ」



Plan 関係図



活性化の道筋 ①

やるべきことはまず4つ。

① 仕事… 収益を上げる仕組みを作る。

農林業から、商工業、観光業などを対象に、クリエイティブ導入によるマネタイズを推進。価値を高め、それが伝わり、したたかに利益も上げるノウハウを導入する。ジビエ案件もここに含まれる。ローカルの産物の多くは、素朴な素材売りに偏りすぎていて、加工品開発など素材の編集が何より重要になる。加えて、自然に代表される地域の潜在力をどこまで物語として紡げるか。

○目的: 公募等で支援対象を決定。商品、広報、空間の三位一体の支援。



釜炒り茶

目標 A 第一次産業系

01 五ヶ瀬ジビエ

→捕獲、処理、調理、加工、販売までを新次元で実現。群を抜くジビエ振興五ヶ瀬モデルを確立。

自然の豊かさを体現し、獣害を好転させるジビエ。しかし、その多くは趣味の延長にとどまっており、事業として確立、さらに文化として定着できているところはほぼ皆無。五ヶ瀬ジビエは、ここに風穴を開ける。処理技術、加工調理に関して講師を招き、ハイレベルのスキルを伝授していく。

今後、処理施設、加工場の開設から、町内飲食店でジビエ料理提供など、町内で完結する仕組み作りに踏み込む。並行して、一般的に手垢の付いている本テーマを、埋もれさせないよう努める。五ヶ瀬のジビエは特別。五ヶ瀬のジビエは別物との評判を獲得すべく、広報戦略に注力する。



02 発酵技術と農業改革

→醤油醸造組合との協働実験。

今回の提案のひとつに、醤油醸造組合との協働実験がある。同組合が開発に取り組んでいる醸造液HFSは、発酵由来の技術革新によって、アミノ酸含有率が飛躍的に高まったことで、調味料の枠を大きく越えた由。現在、農作物の活性剤としての側面がクローズアップされており、五ヶ瀬町での他産地との差異化の切り札として取り組んでもいいのではないかと。

発酵は、ワイン醸造もそうだが、食を取り巻くさまざまなシーンで重要な役割を果たす根幹技術。関連技術も含むこうしたノウハウの転用、応用は、今後の農業においてもブレイクスルーの入り口になる可能性がある。無塩醤油の農業への転換活用もまた、SDGsの常識化が予想される将来において、非常に大きな意味を持つことは疑いがない(資料)。



03 特産センターごかせ

→特産センターごかせの機能拡充と6次化・商品開発

国道218号線沿いに位置する特産センターごかせは、町外者へ向けての情報発信拠点であり、外部から収益を上げるための貴重な場である。九州中央自動車道の(仮)五ヶ瀬西インターの開通が見込まれ、重要度は増してくる。魅力的な空間づくりや情報提供、商品開発による機能拡充など、できることから着手する。



04 桑野内NEO-AGRI

→茶農家による6次化農業の推進。さらなる先進モデルを構築。

意欲的、先進的に茶業に取り組む事業者を中心に、同地域の茶農家とともに次代の農業モデルを育成する。すでに実績のある茶業の6次化に加えて、ブドウ栽培やカフェ営業、ゲストハウス運営などの業態拡大を図る。五ヶ瀬の茶業の特徴として、全国から集まるノマドワーカーの存在があるが、こうした流動的人材の一部、または新たな移住者の誘い込みによって、担い手を確保する。



05 フォレストピア復活

→五ヶ瀬の自然と歴史を再解釈したツアー開発など。

五ヶ瀬には、オリジナルツアーが組めそうな素材がたくさんある。要は何をどう見せるか。例えば、満天の星。南限とされるブナ林。宮城県仙台市と同じ年間気温という事実は、九州の東北と言って差し支えない。南国のイメージが先行する宮崎にあって、この環境は料理の仕方次第だと思えてならない。何より、過去にもフォレストピア構想という時代に先んじた思想があった。

また、五ヶ瀬にはユニークな史実が数多く眠っている。歴史と伝統自体は全国どこにでもある。安易にそこに寄りかかるとはならず、これもまた切り口や打ち出し方が重要だ。貴重な素材をいかに魅力的にアピールできるか。いまこそ、これらのアイデア群を現代にアップデートするタイミングと受け止め、再構築を行いたい。



キーワードその1

複業兼業

ことローカルにおいて、都市的な労働形態はそぐわない。新卒で大企業に就職し、フルタイムで働き、定年まで勤め上げるスタイルは、決してスタンダードではない。ローカルにはローカルのワークスタイルが求められる。そのひとつが、いくつもの仕事をこなす、複業や兼業だ。これは新時代のゼネラリストとすることができるかもしれない。それぞれの業種のボリュームが小さく、単一の業種で生計を立てることが難しい一方、誰もが多様な働き方をすることで、収入と労働両面においてローカルの経済は健全化すると思われる。

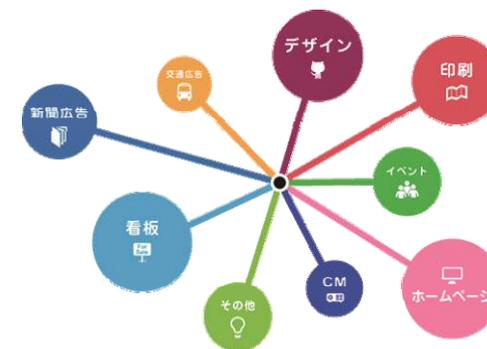


活性化の道筋 ②

② 情報… 物語を組み立てる。

すべての情報は、知られて始めて意味を持つ。多くのローカルプロジェクトは、ここに鈍感すぎると言わざるを得ない。HPやパンフレットがあり、イベントもやっているというかも知れない。問われるのは、ここでもその質である。前述の産業支援や教育強化のさまざまな動き、出来事自体が新コンテンツになり得る。ここでも、クリエイティブが力を発揮する。イベントを含む、新しく魅力的なコンテンツを揃え、それらをWEB、SNSをフル活用して拡散を図る。加えて、今回は連携協定を交わした西日本新聞の持つジャーナリズムとしての視点とどこまで重ねられるかもひとつのポイントとなる。

○目的:継続的広報戦略の組み立て



目標 A 素材の収集

01 写真や動画の撮影

五ヶ瀬の美しい自然を、まだ見ぬ人たちに届けるとき、最も重要な素材が写真や動画です。現代は、ポスターやパンフレットといった印刷物に加えて、ホームページやSNSといった多様なWebメディアで情報が拡散する。その際に、低品質のコンテンツが出回るのは致命的。来ていただきたい町外の皆さんと最初に接するのが、これらの素材。五ヶ瀬の第一印象を決めてしまうこうした素材をきちんとストックしていきたい。



目標 B 自前メディアの整理

01 ブランドHPの開設運営

将来的には、現HPとは別に五ヶ瀬ブランドを盛り上げる専用のブランドサイトが欲しい。町民のための行政サービス案内が主軸となる現HPと一線を画し、対外的発信を強く意識した広報の要として立ち上げる。



02 SNSによる発信スタート

インスタグラム、Twitter、Facebook、TikTokなど、世はSNSが溢れている。これほど簡単に発信ができた時代はない。使い方に配慮をして、戦略的広報に組み込むことで、相乗効果は計り知れない。

03 YOU TUBEチャンネル開設

動画でしか伝わらない情報がある。五ヶ瀬町公式のYOU TUBEチャンネルがあってもいい。スマホの進化で、写真も動画も驚くほど良質の撮影ができるようになった。一定のスキルさえあれば、町民によるチャンネルも十分に開設運営が可能だ。



目標 C 戦略的広告出稿

01 広告制作統括

ハイランドスキー場の新聞広告で実践がスタートしたが、町全体のブランドイメージを視野に入れながら、個々の広告も制作することで、イメージのばらつきを防ぐ。大小の広告をできる限り把握して、投資効率の上昇もめざす。

キーワードその3 問題は語り方

情報発信の巧拙は、結果に大きな差をつける。ネット社会になって、その傾向は強まりこそすれ弱まることはない。また、発信と言っても、大声で叫び続ければいいわけではない。ささやくことが有効な場合もある。なにより、一貫性がないメッセージでは、信用は得られない。洗練されていない外観は伝わりづらく、人気を得にくい。クリエイティブはここでも力を発揮する。



活性化の道筋 ③

③ 技術 … DXを我が物にする。

時代はインターネット、デジタル化が前提になっている。そもそも、それらは都会ではなく、五ヶ瀬のような田舎にこそ福音だったはずだ。五ヶ瀬町は、距離のハンデが激減し、都市と地方の格差を縮小するDXを積極的に実践する。山奥の小さな町が、ICTをどこよりも使いこなすせば、それ自体が希望に満ちたニュースになる。本プロジェクトは、活性化の新たなキーワードとして、DXの定着を目指す。

○目的:地方自治体におけるITの高度実践例を作る。

自治体DXおよびICT(情報通信技術)の高度活用を混在しないよう、事前にしっかり整理する。



目標A 役場系

01 五ヶ瀬情報化推進委員会

→外部専門家を招聘

掛け声だけでは、実現は覚束ない。その最大の障壁は、意識の問題であると推察されるが、当事者としての負荷の大きさは想像以上かも知れない。その前提に立てば、実践にはきめ細かなサポート体制が欠かせないと思われる。その解決として、機動力のあるベンチャー系企業を参画させ、協働体制下での推進を図ることが望ましい。

ただし、やるべきことを投げて待つのではなく、ともに動きながら、手厚いサポートを行う必要がある。IT定着は、やるかやらないかではなく、いかにやるかの選択肢しかない。加えて、地域への普及は行政率先の構図が最もスムーズだろう。広まってしまえば、クルマ社会の浸透と同じで、利便性の実感とともに定着が急速に進むと考えられる。



02 絶景サテライトオフィス

→町内既存施設を、サテライトオフィスにリノベーション。

五ヶ瀬町におけるIT活用のシーンを思い浮かべるとき、都市部ではあり得ないこの土地ならではの優位性に気づくだろう。それは、阿蘇や祖母傾山系を見渡せる絶景を眺めながらのワーケーションだ。夜、仕事の手を休めて見上げる空には満天の星。そんなワークスタイルが世界とリアルタイムで繋がりながら可能になる。



山間部故に、光ケーブルはすでに隅々まで行き届いており、新たなインフラ投資はほぼ必要ない桑野内・鞍岡・三ヶ所それぞれに素晴らしい景観がある。その絶景を生かしたサテライトオフィスができたと思像してみるといい。こんな贅沢な仕事環境は、どこを見渡してもそうそう見当たらないはずだ。また、そこが特定企業のオフィスだけでなく、シェアオフィスの要素を持ち、移住定住の相談窓口が併設されるような空間になれば、若者たちを中心に相当な吸引力になると思われる。



目標 B 教育系

01 デジタルネイティブ・プラットフォーム

→現在のオンライン授業など教育現場のIT利用の更なる推進。

後出の学習項目と直結するテーマ。ITと教育は、非常に親和性が高い。都市から遠いことが障害にならないばかりか、自然の教材に恵まれたロケーションを考慮すれば、IT活用によってたちまちローカルのハンデは、アドバンテージに転換する。そうした優位性をより大きくするために、五ヶ瀬町ではデジタルネイティブの子供たちの育成を、教育政策の根本に置いてはどうか。ITやデジタルは、もはや都市のものではない。田舎を光らせるための有効な手立てだと捉えたい。



キーワードその2

田舎にこそIT

物理的距離の制約が大きいローカルでは、インターネットの恩恵は都会のその比ではない。差が縮まるどころか、逆転すら起こっている。インフラとしても、すでに僻地故の普及が進んだ光ケーブルなどの回線共用が容易で、実行への設備的ハードルは比較的少ない。生かすも殺すも、考え方ひとつだろう。IT利用定着の最も大きなハードルは、意識改革といっても過言ではないかも知れない。インフラを整えるだけで安心しないように心掛けたい。



活性化の道筋 ④

④ 学習 … 子どもから大人まで学び続ける町。

地方のハンデと思われがちなことの一つに教育学習がある。すでに、五ヶ瀬教育グランドビジョンもスタートしており、人生のどのフェーズにおいても学び、向上ができる仕組みをめざしている。子供たちに対しては、OSに相当する感性教育を強化し、長じては生き甲斐を失わず地域貢献を志す人材を育成する。オンラインに象徴される都市と地方の落差を減らすIT技術などをフル活用し、豊かな自然と組み合わせた独自のカリキュラムとスタイルを確立する。

○目的:オンラインと滞在のプログラム



目標 A 五感を刺激し育む五ヶ瀬メソッド

01 タブレットを持って野に出でよ。

→PCの普及は、仕事の有り様を変えたが、それは必ずしもデスクワークにとどまらない。タブレットやスマホの登場で、事実上のPC環境を屋外に持ち出せるようになった。電波環境さえ許せば、野山においても膨大なコンテンツにアクセスできるわけで、百科事典を携帯しているのと変わらない。植物の同定などの情報収集が現場で可能になり、写真が撮れ、メモが書ける。しかもそれらは瞬時にアーカイブ化され、遠隔地の仲間とも容易に共有ができる。IT技術によって屋内と屋外の境界が消え、五ヶ瀬は圧倒的なフィールドを抱えており、デジタル野外教室とも言うべき、独自授業を構築していける状況が誕生した。



目標 B

学びで豊かになる五ヶ瀬の生涯学習

01 大人になっても学び続ける日常を。

→生涯学習に取り組む自治体は少なくない。しかし、ほとんどはシニア層の生きがいづくり的なプログラムで、積極的な学びとそれを活かした活動の事例はそう多くはない。五ヶ瀬では、どの世代でも自らのスキルを上げられる機会を増やしてはどうか。しかも、そのスキルで起業し、働き続けてもいい。社会においていつまでも必要とされることほど意義あることはない。また、講師側に回れる人材もいるだろう。積み上げた知恵の共有も可能になるプログラムに期待が掛かる。



キーワードその4

どこでも学べる時代

現代は、大人でも子どもでも、テーマに限らず、時間と場所の制約をほとんど受けずに、容易に学びの機会を創出できる時代だ。オンライン教育が注目を集め、瞬く間に世界を席卷しつつある。基礎教育では、デジタル技術を活用し、義務教育以降なら、学び舎は、どこにあっても成立する様相を呈してきた。講師も学生も世界中から参加できるのである。五ヶ瀬にオンラインの大学ができるかも知れない。季節ごとのリアルミーティングでは、このロケーションは断然優位に働くことは疑いが無い。



五ヶ瀬プライドスケジュール (2021年4月～2022年3月)

年	全体 	ジビエ 	仕事 	情報 	技術 	学習 
2021年						
4月	五ヶ瀬プライドキックオフ デザイン・クリエイティブ研修 五ヶ瀬プライドスケジュール共有	処理場新設に向けたディスカッション スケジュール・課題・場所・ヒト				
5月						
6月			醸造液HFSでの農作物試験栽培(農林) ※西白杵農業改良普及センターの報告	広報オンライン会議(企画) 動画撮影、SNS発信、HPトップページ制作		
7月	役場内に町長直轄の五ヶ瀬プライド 推進委員会を設置		民間有志による五ヶ瀬プライド実行委員会結成 すぐ動ける6次化検討(農林)	素材収集・編集(写真・地域情報) ※3年かけて取り組む内容のビジュアル提示		
8月		人材確保・処理加工場新設について(農林) 猟友会ほか関係者を交えての議論を加速	※候補:ジビエソース・ドライトマト・食茶 特産センターごかせプラン提示(企画)		総務省自治体DX推進手順書提示	
9月	新庁舎開庁(9/28)	★今年度中にヒト・処理場を含めた ジビエ振興 五ヶ瀬モデルを固める			9/1 デジタル庁発足 サテライトオフィス・ワーケーション 事業案(企画)	
10月		ジビエ調理実習①	事業者に対してのクリエイティブ研修(全体) 桑野内NEO-AGRI検討(農林)		※地方創生テレワーク交付金活用	五ヶ瀬教育グランドビジョンと連携についての 意見交換(教委)
11月		ジビエ調理実習②		ハイランドスキー場プロモーションスタート	ブルーイッシュ五ヶ瀬町視察(総務) 現状把握(IT環境・住民サービス・役場業務)	
12月		特産センターでジビエ料理試験提供 (農林・企画)			自治体DXとICT(情報通信技術)活用の整理 デジタル庁やブルーイッシュ社に伴走して もらいながら	
2022年						
1月					五ヶ瀬に相応しいデジタル化の方向性を協議	
2月		処理加工実習(糸島ジビエ研究所)				
3月						
2023年						
2024年						
2025年						

五ヶ瀬プライド5ヶ年スケジュール (2022年～2025年)

	全体 	ジビエ 	仕事 	情報 	技術 	学習 
2022年			桑野内NEO-AGRI 茶農家による6次化農業の推進。茶栽培、加工を軸としながらも、カフェ運営やぶどう栽培にも拡充し、並行して自力の情報発信、販売を行う。	自前メディアの整理 現場スタッフは撮影編集に経験を積みながら、2年目を自処に、YOU TUBEチャンネルを開設。構成、表現については、editforestがアドバイス。	絶景サテライトオフィス 町内既存施設を、サテライトオフィスにリノベーション。IT先進地のシンボルとして整備し、企業移住を視野に、積極的な活用発信を行う。	
2023年				自前メディアの整理 現HPに加え、地域の魅力発信に特化したブランドHPを開設し、運営する。	デジタルネイティブ・プラットフォーム 例: デジタルネイティブ・プラットフォーム → 道筋④の学習と重ねながら、現在のオンライン授業など教育現場のIT利用のいっそうの推進を図る。	五感を刺激し育む五ヶ瀬メソッド 例: 携帯が容易なタブレットを携帯の野外観察を行い、博物誌を制作する。新しいITと従来のフィールドワークの融合プログラム。
2024年			フォレストピア復活 すでに積み上げられた先人の努力に加え、五ヶ瀬の自然と歴史を再解釈した新しいツアー開発などを検討する。			学びで豊かになる五ヶ瀬の生涯学習 例: 大人になっても学び続ける日常を。どんなに高齢になっても、地域や社会から必要とされつづけるための、生涯学習のあり方を開発する。五ヶ瀬の生涯学習は生涯現役を増やすプログラム。
2025年			目的: 公募等で支援対象を決定。商品、広報、空間の三位一体の支援。	目的: 継続的広報戦略の組み立て	目的: 地方自治体におけるITの高度実践例を作る。	目的: オンラインと滞在のプログラム